令和５年　恵那市議会特別委員会活動報告書

１．委員会の名称

リニア中央新幹線対策特別委員会

２．活動の状況

〇恵那市議会・中津川市議会正副委員長会議

・開催日　令和５年６月 28 日（水曜日）
・出席者　中津川市議会正副委員長及び事務局、恵那市議会正副委員長及び事務局
・場　所　中津川市役所５階　議長応接室
・議　題　恵那市議会・中津川市議会リニア関連懇談会について
　　ＪＲ工事事務所長、県リニア推進事務所長への挨拶

〇令和５年度リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会定期総会へ出席

・開催日　令和５年７月 18 日（火曜日）
・出席者　当委員会委員を含む議員１４名
・場　所　セラミックパークＭＩＮＯ　国際会議場
・定期総会
・【講　演】
　テーマ：「リニアを活用したまちづくり」
　講　師：名古屋大学未来社会創造機構
　　モビリティ社会研究所　教授　森川　孝行　氏

〇第１回リニア中央新幹線対策特別委員会の開催

・開催日　令和５年７月 25 日（火曜日）
・場　所　第２委員会室
・議　題　リニア中央新幹線関連事業の進捗状況について
　　中部電力の送電事業の進捗状況について
　　その他

〇恵那市議会・中津川市議会リニア関連懇談会へ出席

・開催日　令和５年８月４日（金曜日）
・出席者　中津川市議会、恵那市議会 リニア中央新幹線対策特別委員会委員
・場　所　中津川ひと・まちテラス
・視察先　（仮称）神坂スマートＩＣ、馬籠宿

・議　題　両市特別委員会の過去１年間の経過報告
リニア中央新幹線に関する最近の動向について
・岐阜県の状況について
・両市の現状について（恵那市、中津川市）
意見交換

○リニア中央新幹線対策特別委員会行政視察の開催
・開催日　令和５年 10 月 26 日（木曜日）から 27 日（金曜日）（２日間）
・視察先　長野県下伊那郡豊丘村、山梨県都留市、神奈川県相模原市、
山梨県南アルプス市
・内　容　リニア各県駅周辺のまちづくり等を視察
（詳細は恵那市議会委員会行政視察報告書に記載）

○第２回リニア中央新幹線対策特別委員会の開催
・開催日　令和５年 11 月９日（木曜日）
・場　所　第２委員会室
・議　題　リニア中央新幹線対策特別委員会の名称変更について
その他

○第９回恵那市リニア中央新幹線対策協議会
・開催日　令和５年 11 月 14 日（火曜日）
・出席者　議長、正副委員長
・場　所　恵那文化センター　集会室
・議　題　リニア中央新幹線関連事業の状況報告
リニア中央新幹線電力供給事業の状況報告
その他

３．今後の方向性等

岡瀬沢・観音寺地区の環境対策工については、昨年の春、防音防災フード区間およびトンネル区間を延伸した新たな計画が、ＪＲ東海より示されました。この計画が地域の承諾を得たことにより、同地区の環境などの調査や用地交渉が進められています。これにより、恵那市内においては全ての地区においてリニア事業が始まったことになります。

その他の地域の状況として、大井町７区では、機能回復道路についてＪＲ東海と市の協議が進み、用地交渉が行われています。

長島トンネル品川方となる大井非常口については、昨年 12 月よりヤード整備工事が始まりました。武並町藤地区の長島トンネル名古屋方においては、トンネ

ル掘削工事が進められ、10 月時点で掘削延長が１ｋｍを超えています。

また、日吉トンネル（武並工区）については、今年６月より施工ヤードの整備に着手されています。

市の内外において、リニア中央新幹線の工事が目に見える形で進められています。当委員会としても、今後も県内外のリニア沿線自治体の状況を把握するとともに、近隣市町村との連携し適切に対応していきます。

さらに、リニア中央新幹線を活かした地域振興や活性化に向け、平成 26 年策定の「リニアまちづくり構想」に掲げた施策を基に、リニア効果を生かすための実施事業の具現化を目指すとともに、令和元年 12 月に策定された「恵那市リニアまちづくり基盤整備計画」の着実な実行に注視し、今後も引き続き調査・研究を行っていきます。

上記のとおり報告します。

令和５年 11 月 28 日

恵那市議会リニア中央新幹線対策特別委員会
委員長　　後藤　康司

恵那市議会議長　　千藤　安雄　様

恵那市議会委員会行政視察報告書

１．委 員 会 名　　リニア中央新幹線対策特別委員会

２．視察年月日　　令和５年 10 月 26 日から令和５年 10 月 27 日まで　２日間

３．視察委員名　　後藤康司（委員長）、西尾　努（副委員長）、服部紀史、伊藤勝彦、猿渡南江、町野道明、堀　光明

４．随　行　者　　議会事務局長　熊谷春彦、議会事務局書記　古屋恵子

５．視察地及び視察事項の概要

月　日	視　察　地	視察事項の概要
10 月 26 日 10 月 27 日	・長野県下伊那郡豊丘村（豊丘村役場） 【リニア建設工事の現状と課題について】 ・山梨県都留市（山梨県立リニア見学センター） ・神奈川県相模原市（相模原市役所） 【橋本駅周辺のまちづくりについて】 ・神奈川県相模原市（さがみはらリニアひろば） ・山梨県南アルプス市（南アルプス市役所） 【南アルプスＩＣ周辺高度活用推進計画について】	別紙のとおり

上記のとおり報告します。

令和５年 11 月 28 日

恵那市議会リニア中央新幹線対策特別委員会
委 員 長　　後藤　康司

恵那市議会議長　　千藤　安雄　　様

リニア中央新幹線対策特別委員会行政視察報告

リニア中央新幹線対策特別委員会は、今後、予測される当市における検討課題の調査研究のため、下記現地を行政視察したのでその内容を報告します。

１．「リニア建設工事の現状と課題について」

長野県下伊那郡豊丘村役場（長野県下伊那郡豊丘村）

１）視察の目的

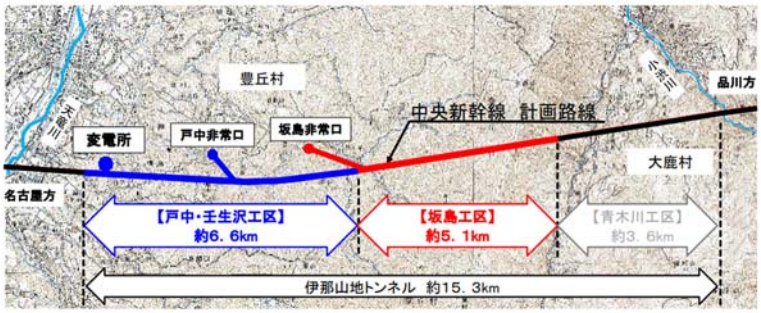
豊丘村では、リニア中央新幹線伊那山地トンネルの新設工事として、令和３年６月から戸中非常口、同７月からは坂島非常口の掘削が開始された。当市でも長島トンネルの掘削工事が始まっていることから、工事車両の運行にあたっての交通安全対策、トンネル掘削の環境対策などについて視察した。

２）調査事項・概要

（１）中央新幹線伊那山地トンネル

中央新幹線伊那山地トンネルは全長約 15.3km あり、豊丘村内での工区としては「戸中・壬生沢工区」と「坂島工区」の２工区で、それぞれ約 6.6km、約 5.1km となっている。

令和３年６月から戸中・壬生沢非常口が、令和３年７月から坂島非常口の掘削が開始され、令和８年９月には完成予定である。



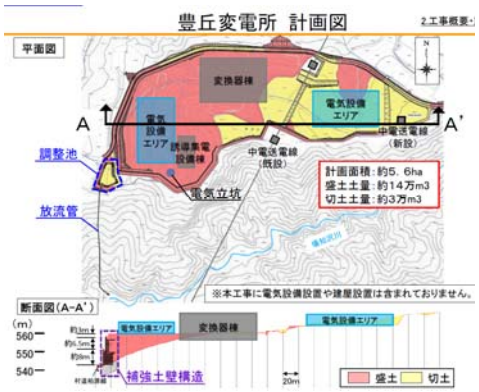
▲豊丘村内の工事概要（中央新幹線伊那山地トンネル新設工事）

トンネルを掘削した際に出る発生土置き場としては、豊丘村の本山地区が長野県で最大の発生土置き場となり約 130 万㎥、そのほかに戸中地区で約 26 万㎥の発生土を盛土として処理することとなっている。県などの関係部局を通じて安心安全を確保しながら工事が進められおり、地域住民が候補地として挙げた場所を発生土置き場としたため、大きな問題は発生していない。本山地区の地権者は地縁団体、戸中地区は地権者 30 名で、当初の予定では事業完了後、地権者に返還する計画であったが、両地区ともＪＲ東海が買収することとなった。

▲豊丘村内の工事概要（発生土置き場）

（２）豊丘変電所

豊丘変電所は、ＪＲ東海が計画し、本年11月に準備工に着手予定。また、中部電力がリニアの電気供給のため、送電線工事を行っており、豊丘村内では全ての送電線工事は終了している。変電所の計画面積は約5.6ha で、ＪＲ東海の土砂を利用して鉄塔公園を造成し、村としては約100台が駐車できる駐車場を整備する予定となっている。



（３）リニア関連工事用車両通行ルート

豊丘村では、トンネル掘削時の発生土置き場や変電所を山間部につくることにより、人が生活している地域を極力外した運行ルートが設定されている。また村内の生活道路は比較的幅員が狭いため、工事用車両は２車線化された道路を極力通行することとし、ＪＲ東海関係の車両、中部電力の車両など分散して通行ルートを設定することで、地域の理解を得ている。

３）まとめ

建設発生土の受入れ地が恵那市と違い、かなり高い山側であるとのことだったが、そこへ至る市道の整備やそれに付随する工事など、ＪＲ東海としっかりと協議が行われている。恵那市としてもしっかりと要望等を行う必要性を感じた。

今後、恵那市にとって実のある交渉を行う必要性を感じた。

２.「橋本駅周辺のまちづくりについて」

相模原市役所（神奈川県相模原市）

１）視察の目的

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）が建設される橋本駅周辺地区では「産業と活力と賑わいがあふれる交流拠点」の形成が推進されている。橋本駅南口は相原駅の移転も完了し、土地区画整理事業を始めとした基盤整備が進められている。岐阜県駅近隣の大井町東地区のまちづくりの参考となるよう視察した。

２）調査事項・概要

（１）広域交流拠点の整備について

相模原市は、リニア、圏央道および鉄道３路線（ＪＲ東日本の横浜線と相模線、京王電鉄の相模原線）により橋本駅周辺を交通結節点として広域とつながっている。橋本駅および相模原駅周辺の一体的なエリアにおいて、多様な都市機能の集積を促進するとともに、アクセス性の高い立地特性を生かし、首都圏南西部における広域交流拠点の形成を目指している。

リニアが開通すると、橋本・品川間は約 10 分、橋本・名古屋間は約 60 分に短縮され、速達性が飛躍的に向上し、市内はもとより、国内外からも多様な人々が訪れることで、さらなる出会いと交流が生まれることが期待されている。

橋本駅周辺では、相模原市、平塚市、藤沢市など周辺の 10 市２町による「さがみロボット産業特区」として、生活支援ロボットの実用化と普及に向けた産業・研究関連施設の集積を行っている。また、東京都が進める「多摩イノベーション交流ゾーン」にも含まれており、より一層の大学や企業、研究施設等の集積やビジネス支援に取り組んでいる。

（２）リニア中央新幹線の整備進捗状況

相模原市では、リニア中央新幹線の工事としては、神奈川県駅（仮称）と車両基地、６つのトンネル工事と２つの橋りょう工事の 10 工区が行われている。すでに国道 16 号交差部トンネルは竣工しており、７工区が着工済みまたは着工準備中であり、２工区が未着工となっている。

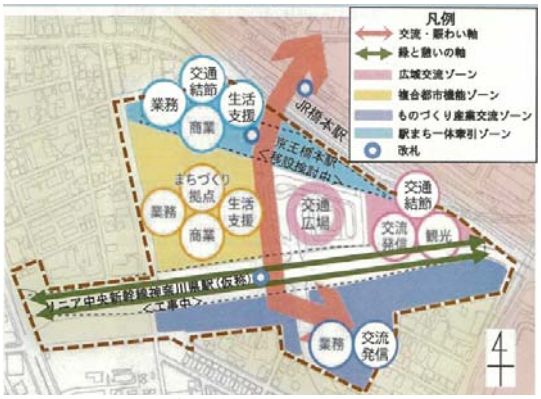
現在の橋本駅の南側にあった県立相原高校跡地を中心に、土地区画整理事業を始めとした基盤整備が進められており、神奈川県駅（仮称）も令和９年の開業に向けて、着々と工事が進められている。その工事の進捗は「さがみはらリニアひろば」から見ることができる。

神奈川県駅（仮称）は全長 800m、幅 50m、深さ 30m の地下３階構造で京王橋本駅の移設も予定されている。

（３）橋本駅周辺の整備について

相原高校跡地とリニア事業地については「土地区画整理事業」で、その他は「道路事業」として実施している。

土地区画整理事業区域内の土地利用計画では、利便性の向上と、駅とまちの一体化を醸成し、まち全体へ賑わいを広げる「駅まち一体牽引ゾーン」、観光、物産、産業等に関する交流や情報発信の拠点となる「広域交流ゾーン」、働きやすさ、住みやすさ、過ごしやすさを兼ね備えた、だれもが心地よく過ごせる「複合都市機能ゾーン」、「ものづくり産業交流ゾーン」として産業集積を牽引するゾーンの４つに分類されている。



▲まちづくりの骨格図

道路事業としては、「誰もがアクセスしやすいまちをつくる」をテーマに、「交通結節機能の強化」「３つの鉄道駅、交通広場と南北のまちをつなぐ」「駐車場の適正配置と効率的な運用を誘導する」の３方針に基づき、骨格となる既存道路と橋本駅南口地区を結ぶ道路の整備・改良を行っている。

３）まとめ

リニア神奈川県駅（仮称）の開設に向けて、橋本駅周辺のまちづくりは「土地区画整理事業」と「道路事業」と計画的に行われていることは極めて参考になった。恵那市においても「土地区画整理事業」の計画の必要性を感じた。

恵那市は規模が異なるが、都市間道路・リニア軌道でのまちづくりなど、今後も現状確認やアドバイスを受けることも視野に入れていきたい。

３．「南アルプスＩＣ周辺高度活用推進計画について」

南アルプス市役所（山梨県南アルプス市）

１）視察の目的

南アルプスＩＣは、2004 年３月の中部横断自動車道・南アルプスＩＣ－白根ＩＣ間の開通に伴い供用が開始された。ＩＣ周辺は従来農業を中心とした土地利用が行われてきた。高速道路やリニアなど大都市圏や世界と繋がるポテンシャルを活かし、将来にわたり持続可能なまちを形成するための拠点を目指すため、南アルプスＩＣ周辺高度活用推進計画が 2023 年７月に策定された。恵那市においても恵那峡ＳＡスマートＩＣが計画されている大井町東地区のまちづくりの参考となるよう視察した。

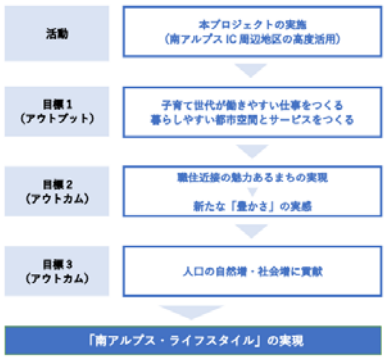
２）調査事項・概要

（１）プロジェクトの概要、基本方針

南アルプスＩＣ周辺高度活用推進計画は、南アルプス市の持つ様々な魅力を生かし、参入企業と連携することにより、地域全体における新たな「豊かさ」を創出することを通じて、人口増に貢献することを目的としている。

▲南アルプスＩＣ周辺の状況

南アルプス市でも人口減少と少子高齢化が進展し、働く環境や交流人口、移住・定住人口の創出が重要な課題となっているため、従来の農業を中心とした土地利用から、「まちの玄関口」として南アルプスインターチェンジ周辺を高度活用することにより、将来にわたり持続可能なまちを形成するための拠点の創造を目指している。



▲ビジョンの実現に向けた目標設定

高度活用推進計画では、『長期的「ビジョン」に基づく計画策定』および『参入企業と共に地域を育てる開発へ』の２点を意識した計画となっており、地域を軸とした新たな「豊かさ」を創出するまちづくりとして、「社会」「経済」「環境」「人」「関係」の５つの視点を設定し、「南アルプス・ライフスタイル」の実現に向けた目標設定をしている。

本プロジェクトという活動を通じて実際に提供されるものやサービス（アウトプット）と、それによって生じる地域の変化や効果（アウトカム）という２つの目標を持って計画の実現を目指している。

（２）土地利用方針

市の発展を誘導する土地利用として、

・新産業拠点地区と連携、「まちの玄関口」創出

・既成市街地との連携・融合した土地利用、新たな都市機能の創出

・白根ＩＣとの連携、相乗効果

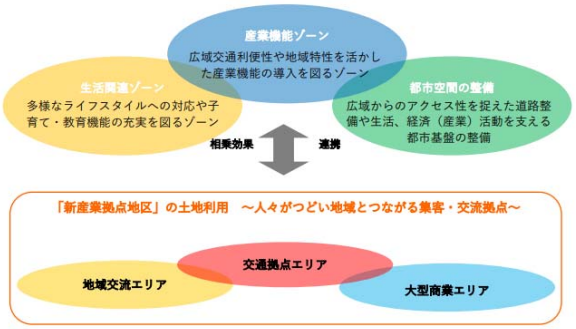
の３点を都市計画に位置づけている。

▲土地利用方針図

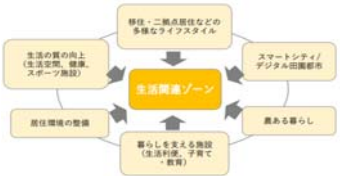
また、市の魅力を活かすための土地利用の考え方として、プロジェクトの目標として掲げた「子育て世代が働きやすい仕事をつくる」、「暮らしやすい都市空間とサービスをつくる」を達成するため、「仕事」と「暮らし」に焦点を当てた土地利用を図ることで「職住が近接し、自然や農業が身近にある暮らし」の実現に向けた取組を行う。

（３）土地利用ゾーニング・道路ネットワークの方針

「産業（仕事）」、「生活（暮らし）」の２つの土地利用区分（ゾーニング）を行うことで、用途の混在を避け、秩序ある安全安心な土地利用を図ることとし、生活、経済（産業）活動を支える「都市空間（都市基盤）」を整備することにより、それぞれの土地利用の質を高めていく。さらに、「新産業拠点整備地区」と連携し、一体的な土地利用を図ることで相乗効果を生み出す。



▲土地利用区分の考え方



３）まとめ

恵那市では、大井町東地区で委員会が立ち上がり、リニア沿線でのまちづくりを検討している。また、都市計画審議会においての都市計画マスタープランの変更など、参考となる事例が非常に多くあった。今後も状況を確認しながら、参考にしていきたい。

山梨県立リニア見学センター　　山梨県都留市

１）視察の目的

山梨県リニア見学センターは、山梨リニア実験線の走行試験の開始に合わせて開館した県立の博物館。

山梨リニア実験線での走行試験の様子を見学し、超電導リニアやリニア中央新幹線の概要を模型や各種展示物等により、次世代の高速鉄道と言われる超電導リニアについて理解を深めた。

２）まとめ

見学センターは、2003 年に最高速度 581km/h を記録した試験車両（MLX01-2）が展示されおり、車内を見学することも可能。また、50 年にわたるリニア開発の歴史を歴代リニア車両の模型とともに年表で表示されており、近い将来、恵那市を走るリニアについての知識を得ることができた。

また、視察当日は、超電導リニア体験乗車が開催されており、試乗することはできなかったが、間近で時速 500km を感じることができた。

▲リニアの歴史が学べる展示

さがみはらリニアひろば　　神奈川県相模原市

１）視察の目的

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）は、2019 年 11 月に着工された。延長約 680 メートル、最大幅員 50 メートル、地下３層構造からなる大規模地下構造物となる。2023 年６月に工事現場や工事の様子を一望できる場所として「さがみはらリニアひろば」が開園された。今しか見ることのできない工事の進捗や工事現場が変化する様子を視察した。

２）まとめ

神奈川県駅（仮称）は延長 800m、深さ約 30m の地下３階建ての駅になる予定で、令和９年の完成を目指す工事の様子を見ることができた。

恵那市においても工事の進捗状況が確認できる場所があり、地域住民と一緒になってリニアにおける地域の活性化を推進していく必要性を感じた。

▲ひろばから見た工事の様子